

## EUSI メールマガジン Vol. 068

### 「死刑廃止の EU と死刑存置の日本 その違いはどこから来たのか」(王雲海)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)  
[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【EUSI Commentary Vol. 050】

#### 「死刑廃止の EU と死刑存置の日本 その違いはどこから来たのか」

王雲海 (一橋大学大学院法学研究科教授)

EUの国々と日本は、ともに、近代国家であり、民主主義、法治主義などの普遍的価値と制度を多く共有している。しかし、死刑の存廃に関しては、全く違う姿勢を見せている。死刑の廃止を加盟のための絶対条件としているEUと違って、日本はいまだに死刑を存置させ、死刑判決も死刑執行も行われている。

なぜこのような違いが生じてくるのであろうか。その答えを探ろうとして、3月16日に、EUSIは一橋大学法学研究科と一緒に国際シンポジウムを共催した。そこで、EU駐日公使、ドイツ連邦政府の人権問題担当者、オックスフォード大学の著名な研究者、日本で活躍している教授や弁護士などにより、大変活発な議論が展開された。会場で議論を聞いて多くの示唆を得た私も、なぜEUは死刑を廃止できたのに、日本はできていないのかということについて自分なりに考えていた。

近代国家は、実は、二本の柱でできている。一つは民主主義で、もう一つは法治主義(立憲主義)である。しかし、この両者は完全に性質の違うような原理である。

民主主義の基本原理は国民主権と多数決であり、選挙によって多数票の獲得者が必ず当選するため、その本質は多数による「力の支配」である。

これに対して、法治主義の基本原理は合理主義と人権主義であり、被告人が有罪になるか否かは多数がどう投票したかではなく、犯罪をやったか否かである。その本質は「理性・合法性の支配」である。

民主主義の実現と社会の民主化が、刑事司法、特に刑罰、死刑に対して有する意義またはもたらした効果は、ただ一つである。つまり、それらの問題を独裁者の手から解放し、離させることである。

しかし、このように解放された刑事司法、刑罰権、死刑権を誰の手に委ねて、どのような原理、プロセスでそれに対処するかに関しては、必ずしも自明なことではなかった。そこで、近代国家では・・・

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol50.pdf>

#### 【EUSI イベントご案内】

1. EUSI 政治プロジェクトワークショップ「総選挙後のイギリス政治とEU」

日時: 2015 年 5 月 16 日(土) 15:30-17:30

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 東館 6F ホール G-SEC ラボ

参加: 無料・事前登録不要

報告:

池本大輔 (明治学院大学法学部准教授)

「イギリスと EU の冷淡な関係: 国際通貨問題の視角から」

細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授、EUSI 執行委員)

「イギリスは EU から離脱するのか?: 総選挙後イギリスの政治と外交」

司会・討論: 田中俊郎 (慶應義塾大学名誉教授、EUSI 理事)

<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/20150516-politics/>

### 【EUSI サマースクール案内 (募集継続: 一橋大学学部生・大学院生対象)】

EUSI では、毎年ヨーロッパとアジアで 1 週間ずつ、合わせて 2 週間の期間で、EU に関する様々な授業を行うサマースクールを開講しています。

今年は、韓国(ソウル国立大学校)とベルギー(ルーヴァン・カトリック大学)で開講し、日本(EUSI:一橋・慶應・津田塾)、ベルギー(ルーヴァン・カトリック大学)、韓国(ソウル国立大学校)から各 10 名の学生の参加を予定しています。一橋大学分のみ引き続き募集いたします、奮ってご参加ください。

対象者: 一橋大学学部 3・4 年生・大学院生で EU に興味のある学生  
(但し一橋大学の学部生については「EU 入門」を既に履修した学生を優先)

募集人員: 若干名

開催期間: 2015 年 8 月 17 日(月)-8 月 29 日(土)

8 月 17 日(月)-8 月 21 日(金) 韓国 (ソウル国立大学校)

8 月 22 日(土)-8 月 23 日(日) 移動

8 月 24 日(月)-8 月 29 日(土) ベルギー (ルーヴァン・カトリック大学)

応募書類: 次の書類を EUSI 事務局にご提出ください

1. 申請書(所定の様式)、2. 応募理由 英文で A4 版 1 頁以内(様式は任意)

応募締切: 2015 年 5 月 7 日(木)

その他詳細については以下:

<http://eusi.jp/collaboration/2015summer-school/>

過去の EUSI サマースクール参加者による報告は以下:

2014 年参加: 石井雅浩(一橋院修士)

[http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag\\_057/](http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag_057/)

2013 年参加: 本間篤実(慶應 3 年)、須藤香織(一橋 4 年)、石居莉果(津田塾 3 年)

[http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag\\_033/](http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag_033/)

[http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag\\_035/](http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag_035/)

[http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag\\_036/](http://eusi.jp/mail-magazine/backnumber/mailmag_036/)

2014 年フォトギャラリー (2014.8.18-8.30 Euro-Asia Summer School):

<http://eusi.jp/photogallery/>

2010 年フォトギャラリー:

[http://eusi.jp/collaboration/20100823-0903\\_summerschool\\_photos/](http://eusi.jp/collaboration/20100823-0903_summerschool_photos/)

**【EU に関する文献紹介 (初学者向け)】**

毎年新年度に入ると、「仕事で欧州に関する業務に新たに携わることとなった」または「大学で EU に関する授業を取るようになった」など様々な動機でメールマガジンを知って下さることがあり、登録者数が増える季節でもあります。同時にそれは、EU を初めて知る上でどのような本や資料があるか、どのようにわかりやすく面白い情報源から入ればよいか、ということが求められているのかもしれない。

そんな今回は、EU を知る上で現行で入手可能な、いくつかの質の高い入門編となる本や情報源を紹介したいと思います。

最初に最も手頃な入門書として、岩波新書から 2 つの優れた本が出ています。まず庄司克宏『欧州連合 統治と論理のゆくえ』は、欧州統合の歴史や拡大、域内市場や安全保障戦略に至るまで、最もバランスよく EU を扱った良書です。また田中素香『ユーロ 危機の中の通貨統合』は、単一通貨ユーロの形成とその仕組み、さらにギリシャ問題までも扱っており、ユーロ問題に関する当代随一の研究者によって描かれた最良の入門書といえるでしょう。

そして最も新しく出た入門書として、中村民雄『EU とはなにか 国家ではない未来の形』は、先に紹介した庄司克宏先生の本と同様に、EU に関して最もバランスの取れた初学者向けの本です。本書はより初学者を意識して争点を簡潔にまとめ直しており、また 2009 年に発効されたリスボン条約以降の EU の最新の仕組みを記述しているところが特徴です。

また EU だけに留まらず少し広い視点で欧州統合を捉えた本として、遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』は、欧州統合を政治・経済・社会面での EU、安全保障面の NATO、そして規範の点での CE(欧州評議会)という三者による相互作用と捉え、より広く欧州統合のダイナミズムを捉え直した画期的労作です。

さらに駐日 EU 代表部は様々な出版物や情報を出していますが、その中でも最も初学者にとって分かりやすいのは漫画かもしれません。『マンガで知る EU とユーロ』は、これまでも新婚旅行先で見たヨーロッパやヨーロッパ駐在の家族などを題材に EU を描いてきましたが、最新作『UNITY! EU との出会いが高校生を変えた』は、ヨーロッパにホームステイした日本の高校生の視点から見た EU を描いた作品で、絵も物語も非常に読みやすく初学者にはお薦めです。そして『EU MAG』は、毎月 EU に関する様々な特集を組みながらまとめた情報を提供しており、EU に関する読み物として非常に質の高い優れた媒体です。

これ以外にも EU に関する優れた本や情報源はたくさんありますが、大切なのはきっかけは何であれ、サッカーでも映画でも旅行でもあるいはニュースでも、EU や欧州に関心を持つことで視野が広がることではないでしょうか。その中でこのメールマガジンも、皆様の良いきっかけのひとつとなれば幸いです。

庄司克宏『欧州連合 統治と論理のゆくえ』(岩波新書、2007 年)

[http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin\\_kkn/kkn0710/sin\\_k381.html](http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin_kkn/kkn0710/sin_k381.html)

田中素香『ユーロ 危機の中の通貨統合』(岩波新書、2010 年)

[http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin\\_kkn/kkn1011/sin\\_k560.html](http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin_kkn/kkn1011/sin_k560.html)

中村民雄『EU とはなにか 国家ではない未来の形』(信山社、2015 年)

<http://www.shinzansha.co.jp/book/b194639.html>

遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』増補版(名古屋大学出版会、2014 年)

<http://www.unp.or.jp/ISBN/ISBN978-4-8158-0767-2.html>

駐日 EU 代表部編『マンガで知る EU とユーロ』シリーズ  
『UNITY! EU との出会いが高校生を変えた』第 4 版(駐日 EU 代表部、2013 年)  
[http://www.euinjapan.jp/wp-content/uploads/UNITY2013\\_web.pdf](http://www.euinjapan.jp/wp-content/uploads/UNITY2013_web.pdf)  
駐日 EU 代表部公式ウェブマガジン『EU MAG』  
<http://eumag.jp/>

### 【EU に関するニュース】

- 2015 年 4 月 1 日 モグリーニ上級代表ら、イエメン情勢について宗派・武装勢力間の対話解決を促す声明
- 2015 年 4 月 1 日 ギリシャ、EU 支援条件の新改革案提出。脱税・不正取締等で最大 61 億ユーロ増収見込み
- 2015 年 4 月 2 日 E3+3 イラン核協議枠組合意。モグリーニ上級代表、6 月末までに最終合意目指す共同声明
- 2015 年 4 月 2 日 ECB、3 月理事会議事要旨公開。景気見通し改善でも量的緩和(QE)を断行との認識で一致
- 2015 年 4 月 2 日 ECB、債券市場での証券不足や市場流動性の低下を防ぐため、証券貸出プログラム開始
- 2015 年 4 月 3 日 モグリーニ上級代表、ケニアの大学でのキリスト教学生ら 147 名殺害テロに対し哀悼声明
- 2015 年 4 月 6 日 岸田外相、日・アルバニア外相会談でアルバニアの EU 加盟支援意向表明
- 2015 年 4 月 7 日 EU、シリア・ヤルムーク難民キャンプの状況改善のため、250 万ユーロの緊急資金拠出
- 2015 年 4 月 7 日 ECB、3 月資産購入額は 609.53 億ユーロ。月額 600 億ユーロもの QE・資産購入措置目標達成
- 2015 年 4 月 8 日 OECD 開発援助委員会、2014 年 ODA 実績発表。EU 諸機関・加盟国は 582 億ユーロで最大拠出者
- 2015 年 4 月 8 日 ツィプラス・ギリシャ首相訪日。首脳会談で対ロ制裁に反対、パイプライン計画等協議
- 2015 年 4 月 8 日 仏、2015 年度財政赤字対 GDP 比を 3.8%に引下げ、EU 財政規律の同 3%は 2017 年達成見込み
- 2015 年 4 月 8 日 中国政府商務部、EU の家禽肉輸入の割当制導入は WTO 規則違反として WTO へ提訴
- 2015 年 4 月 8 日 Eurostat、2 月小売売上高(季節調整済)はユーロ圏 19 カ国で前月比-0.2%、EU28 カ国は前月同
- 2015 年 4 月 9 日 モグリーニ上級代表、スーダン政府による国民対話停滞と本年中選挙実施環境不備を懸念
- 2015 年 4 月 10 日 モグリーニ上級代表、シリア・ヤルムーク難民キャンプの情勢悪化を懸念する声明
- 2015 年 4 月 11 日 モグリーニ上級代表、米州首脳会議参加。EU は同会議初招聘。オバマ大統領らと会談
- 2015 年 4 月 13 日 欧州委員会、地球規模の食糧安全保障問題の研究の役割に関する公論喚起のための HP 開設
- 2015 年 4 月 14 日 国際 NGO 団体、リビアから欧州に向かう難民船が地中海で転覆、約 400 人死亡と告発
- 2015 年 4 月 14 日 ECB、1-3 月銀行貸出調査発表。ECB の資産購入計画はユーロ圏内銀行融資促進と評価
- 2015 年 4 月 14 日 Eurostat、2 月鉱工業生産(季節調整済)はユーロ圏 19 カ国で前月比+1.1%、EU28 カ国同 +0.9%
- 2015 年 4 月 14-15 日 G7 外相会合。モグリーニ上級代表、ウクライナ・中東・イラン核協議等に関する声明
- 2015 年 4 月 15 日 日・EU 外相会談、G7 外相会合と併行して開催。EPA・SPA 交渉、テロ対策、地域情勢協議
- 2015 年 4 月 15 日 ECB 理事会、主要政策金利据置き、資産購入計画による効果や量的緩和策の継続を強調
- 2015 年 4 月 15 日 欧州委員会、米 Google 社に検索市場の支配的地位乱用に関する異議告知書を送付
- 2015 年 4 月 15 日 欧州議会、100 年前のトルコのアルメニア人大虐殺を非難、和解促す決議を採択
- 2015 年 4 月 15 日 Eurostat、2 月貿易収支はユーロ圏 19 カ国で 203 億ユーロ、EU28 カ国は 34 億ユーロで共に黒字
- 2015 年 4 月 15 日 ギリシャ国家統計局(ELSTAT)、2014 年財政赤字対 GDP 比は 3.5%で、事前予想の 2 倍超
- 2015 年 4 月 15 日 日本経済研究センター、2 月の EU 景気指数は 2.8 で前月比大幅改善、4 年ぶりの好水準に

### 【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、一橋大学大学院法学研究科の王雲海教授に執筆していただきました。

王先生は、3 月 16 日に開催された EUSI 及び一橋大学大学院法学研究科主催の国際シンポジウム「日本における死刑廃止の課題と見直し」において、その

企画段階から参加されただけでなく、具体的な会議の準備・運営の中心的人物としても尽力されました。このシンポジウムは、内外の研究者に加えて、EU 関係者や弁護士等の実務家も参加し、フロアからの多数の質問をさばききれないほど活発で中味の濃い会合となりました。

今回の論稿では、シンポジウムでの議論も踏まえて、EU と日本の状況を比較しながら、日本ではなぜ死刑が廃止されないのかということについて、鋭い問題意識を持って切り込んでおられます。単なる法律論や政治論にとどまることなく、日本社会に深く根差した文化の問題としても分析されていることは極めて興味深いものがあります。

私は、王先生のお考えの中に、理性の尊重と大衆民主主義への危惧を感じ取りましたが、かつてケインズを中心としたケンブリッジ・グループが主張した賢人達による合理的な判断にもとづく政策形成(ハーヴェイロードの前提)が、後に非民主的な貴族主義だと批判されたことを思うと、正しい意味での法治主義とは何であるのかということについて、改めて先生のお考えをうかがいたいという気がします。

この死刑廃止問題は、EU が大変重視しているテーマであると同時に、日本の社会の根幹に関わる部分を多く含んでいることから、EUSI としても可能な限りフォローしていきたいと考えています。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

次号のメールマガジンが刊行されるまでに、EU では大きなイベントが重なっています。まず私と同様に歴史に関心のある方々にとっては、何よりも 5 月 8 日の第二次世界大戦欧州戦線終戦 70 周年「V-E デー」が挙げられるでしょう。日本では第二次世界大戦終戦は 8 月のイメージですが、ヨーロッパでは 5 月に当たり、欧州では終戦 70 周年を記念する式典が行われる予定です。その翌 5 月 9 日は、ご存知「ヨーロッパ・デー」です。1950 年 5 月 9 日シューマン仏外相が仏独間の石炭と鉄鋼を共同管理することを提唱した日で、これを機に 1952 年欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)が発足し、後の現在の EU へと繋がってゆくこととなります。対独戦線終結のわずか 5 年後に、「シューマン・プラン」が出されたというのは、改めて意義深い出来事であるように思われます。また私の専門とする中国にとっては、5 月 6 日に EU・中国外交関係樹立 40 周年を迎えます。EU にとって日本と同様に重要なアジアの大国との関係を考える上で、果たして EU・中国関係が「不惑」を迎えるのかどうか、日本の我々にとっても重要な意味を持つものになってゆくでしょう。そして現在 EU 内において最も注目を集めているのは、なんといっても 5 月 7 日のイギリス総選挙でしょう。本選挙で与党・保守党が勝利した場合、2017 年末までにイギリスの EU 残留の是非を問う国民投票が実施される予定です。現在、与党・保守党と野党・労働党は世論調査でほぼ拮抗しており、また EU 離脱を主張する英独立党(UKIP)が第 3 位の支持を集めている状況のなかで、英国民はどのような選択をするのか、注目が高まっています。さて来週からはいよいよ GW 突入です。5 月 1 日からはミラノで万国博覧会が開催されます。食の安全や食文化や持続的社會を考えるこのイベントが、我々にとどのような未来を提示してくれるのか、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1  
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局  
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp

---